

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177200078		
法人名	環境開発株式会社		
事業所名	グループホームのぞみの家 カエデ館		
所在地	赤平市宮下町3丁目1番地		
自己評価作成日	平成24年11月5日	評価結果市町村受理日	平成25年1月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaijokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JivgvoCd=0177200078-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成24年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護師を配置し医療連携体制を整え、状態により指示をうけ対応している。医療関係機関との連絡も密に行い連携をとっている。 2. 看取りについては家族の意向を聞き、医師と相談し対応している。 3. 地域行事などに積極的に参加したり、敬老会やクリスマス会などご家族を招待し、公共の場にて盛大に開き交流を深めている。 4. 外食や旅行などに出掛け、外出の機会を多く持っている。 5. ホーム退居者へも記念品を届けるなどして、退居後も関わりを持っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>JR赤平駅から徒歩15分の広い敷地にグループホーム3棟、デイサービス2棟が並んであり、当事業所は9年前に最初に開設された2ユニットのグループホームである。居間や浴室、洗濯室がゆったりと作られており、天井は高く天窓から暖かい陽が入る。小学生や高校生が訪れ、学芸会を披露したり除雪のボランティアをしている。日中は職員4人体制をとり、近くの赤平公園への散歩に対応している。畑での野菜栽培は陽に当たる格好の機会、秋には収穫祭を行っている。利用者は洗濯物をたたんだり、料理の味付けをし、職員は、利用者のマインスマス面より、できること・プラス面に目を向けようと話し合っている。若い職員も多いが、若い職員は実践の中で着実に力をつけている。働きながら勉強を支援する奨学金制度の充実を図って、介護福祉士の資格を取ろうとする職員もできた。ホテルで行う敬老会やクリスマス会に多くの家族が参加し交流している。家族・地域住民・職員に見守られながら、利用者は静かで自分らしい生活を送っている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を常に念頭におき実践に繋げている。	「われわれの介護が家族の介護に近づくように努力する」を常に念頭に置き、日々の介護につなげている。職員は、ケアで迷ったときには、いつも理念に立ち返って考えるようにしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りや近隣の小学校の運動会・学芸会を見に行き、交流している。	地域の祭りや小学校の学習発表会に出かけ、高校生にボランティアで冬囲いや除雪をしてもらい、体験学習の受け入れをするなど地域との相互の交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケア会議・商興会の集まりなどには積極的に参加している。認知症支援ボランティア養成講座で地域住民に向け認知症の方との関わり方についての講義を行い、理解を深められるよう努力している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では活動や利用状況の報告などを行っている。評価への取り組み状況なども報告し、開催頻度についても話し合い意見交換している。	家族、地域包括支援センター、町内会、民生委員、商工会、病院医事課相談員で構成されて、年に4回開催している。報告や質疑応答を行い、詳細な議事録を作成して意見をサービス向上に活かしている。	開催日、時間を週末や夕方以降にしてみたり、敬老会やクリスマスパーティーに委員を招いてその前後に会議を開催するなど、出席しやすい工夫をしながら、2ヶ月に1回以上運営推進会議を開催することを期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市との情報交換や意見交換をし、連絡調整をとり連携を図っている。	市のグループホームは当事業所関係だけなので担当課との結びつき・信頼関係は強い。毎月、利用状況や事故報告などのため訪れている。市主催の講習会に出席して情報と意見の交換をして連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間のみ施錠しているが、日中は自由に出入りできるように施錠はしていない。身体拘束をしない為にはどうしたら良いか、話し合いをし、介助方法を決めている。	施錠は夜間帯のみとし、常に職員は出入り口を注意する体制である。気になった点をミーティングの議題にしたりして、身体拘束や虐待のないケアに関して常に注意し合っている。入浴時には虐待の痕跡がないかをチェックしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングなどで虐待について学ぶ機会を設けている。常に言葉づかいや介護方法に気をつけ、身体確認も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングなどで学ぶ機会を設け、必要があれば使用できるよう支援する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際は書面にて説明し、不安や疑問点がないか確認し口頭での説明も行っている。解約後も今後について相談に乗るなど、継続的な支援を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口の書面を見やすい場所に提示し、苦情等があった場合は、迅速に改善、解決できるようにしている。ご家族から、スタッフや相談員宛に記入することのできる用紙を送り、意見などを伝えやすいようにしている。	意見が出やすいようにするために、毎月家族に対して、要望や意見を記載する用紙の送付を始めた。家族の利用者に対する思いを綴った書面が戻ってきており、その対応の結果を報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフからの意見や提案など、毎月の運営会議で報告し反映できるよう話し合いをしている。	職員が希望する研修などミーティングやスタッフ会議で話しあった内容を管理者が運営会議に持ち込み代表者に提案している。意見記載のための用紙を家族に送付するなど実現した提案も多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得者には資格手当を支給し、個々の評価などを行い、昇格などで向上心をもてるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加したり、精神科の専門医を招いての座談会を行うなどして、学ぶ機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者や管理者は、懇親会などでお互い意見交換をしネットワークをつくっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい環境での生活で安心して暮らせるように、まず傾聴し少しでも早く馴染めるように支援している。入居前にも生活歴や入居までの経緯・現在の心身の状態などの情報を収集し、把握している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前調査や契約時などに不安や要望などを聞いている。また来訪時などに聞いたり、入居後はお手紙で意見や要望を書き添えていただき、支援に反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前調査の中で今までの経過、困っている事、要望を聞き必要としている支援を見極め援助している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にする人生の先輩という事を念頭に開わり、尊敬の気持ちを持ち良い関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	敬老会・クリスマス会など他にも行事へ参加していただき一緒に楽しみ良い関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族だけではなく、馴染みの方なども訪問していただき、今までの関係を大切にしていただき、美容院なども今まで利用していた所を継続していただき今までの関係が途切れないよう支援している。	近所に住む馴染みの人が継続して訪問する利用者があり、気軽に来てもらえるように配慮している。馴染みの理・美容室に同行などで支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常的に協力し合えるような環境づくりをし、お互い支えあいながら生活していけるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の洗濯支援や、敬老会・クリスマスなどにはプレゼントを届けるなどして関係を断ち切らないようにしている。今後についての相談にも応じ、ご家族のフォローもしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様とのコミュニケーションや会話の中から一人ひとりの思いや暮らしの希望を読み取り、可能な限り希望に沿った支援ができるよう努めている。困難な方はご家族から情報を得ている。	まず利用者の意向を聞き、本人本位のケアを目指す。困難な場合は、個人記録や家族からの情報、時間が取れる入浴や散歩時の会話の中から推測して把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前調査で情報を収集し、スタッフ全員が周知している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調だけに限らず、心身の日々の変化に注意し、その日の状態・状況に応じた支援を心掛けている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態に合ったケアができるようモニタリングを行い介護計画の作成をしている。介護計画の同意書に要望記入覧もあり、ご家族などが意見や要望・希望を伝えやすいように配慮している。	本人や家族の意見・要望を聞き、職員の小さな変化や気づきを反映させモニタリングをしながら介護計画をチームで作成している。三ヶ月ごとで見直すのが、変化があれば柔軟に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録があり、申し送りなどで情報を共有し介護にあたっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診や外出支援、入院中の洗濯支援や状況に応じ食事介助も行い柔軟な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の協力を得て、小学校やボランティアの慰問、避難訓練など行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から通院していた病院、希望の医療機関に受診している。管理者やスタッフ、看護師、相談員が医師などと連携をとり、適切な医療を受けられるように支援している。	医師の決定については家族の意思を尊重し、かかりつけ医や専門医への通院は職員が同行している。提携医による月一度の往診がある。毎月家族へ、書面や電話で状況と受診の報告をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制により、利用者の状況を把握している看護師が確保されている。変化があった時には相談し適切な受診が受けられるよう連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は生活状況や心身の状態を書面と口頭にて伝え、本人が安心して過ごせるようにしている。頻繁にベット訪問し状況確認をし、経過のICや情報交換、相談や調整を行い、早期退院に向けて連携をとっている。状況に応じ食事介助へ行き、出来るだけ食事が確保できるよう支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時は生活状況や心身の状態を書面と口頭にて伝え、本人が安心して過ごせるようにしている。頻繁にベット訪問し状況確認をし、経過のICや情報交換、相談や調整を行い、早期退院に向けて連携をとっている。	契約時に「重度化した場合における対応に関わる指針」を提示しながら、家族と利用者に説明し共有している。家族の希望がある場合には、医療関係者と連携しながら看取りを行う体制がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命講習を受け緊急時に備えている。マニュアルも各ユニットに置き、いつでも見られるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練と消火訓練を実施している。『非常災害時における地域との協力体制に関する覚書』を作成し、締結している。	消防が参加して、夜間も想定する年2回防災訓練をしている。町内会・商工会と「地域との協力体制に関する覚書」を交わし、連絡網を築いた。火元を断つ工夫をしている。飲料水の備蓄がある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格などを理解し、尊敬の意を忘れずプライバシーの確保、言葉かけに気をつけている。写真掲示や居室の名札など個人情報に関することは書面と口頭にて説明し同意を得てから、個別に対応している。	人生の大先輩であることを常に意識して誇りを損ねない対応をしている。つい言葉尻が強くなることもあり、職員同士で注意し合ってプライバシーを損ねないよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定しやすい声掛けをしたり、普段の会話の中からも思いや希望を読み取れるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースや生活スタイルを考慮した支援をしている。食事や入浴など時間は決めず自由となっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院や理容院また行けない方はスタッフが散髪や毛染めを行ない、日頃より身だしなみの支援に心掛けている。		

グループホームのぞみの家 カエデ館

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の力に合わせ、食事準備や後片付けなど一緒に行っている。また、体調や嗜好品に合わせた食事を提供し、楽しい食事になるよう努力している。	できる範囲で味付けや盛り付け、後片付けを職員と一緒にしている。利用者の嗜好を取り入れバランスのよい食事を提供している。職員と一緒に楽しい食事となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分など記録し、不足している場合には代替品などで補い状態により点滴に通うこともある。特に制限のない方には自由におかわりをして頂き、お菓子も自由に取れる場所に置いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、自分で出来ない方には介助し行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の心身状態を理解し、排泄パターンを把握し時間誘導や声かけなどで失禁を減らせるように支援している。入院によってオムツになった2名が、パンツに戻った。	排泄パターンを把握し、しぐさや態度に注意して適切なトイレ誘導により自立排泄を支援している。失禁した場合も、まず「大丈夫だよ。心配ないよ。」と声かけて、人目に触れないようにして処置している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の生活の中で出来るだけ体を動かしていただき、食事では食物繊維を多く含む食材を食べていただいたり、牛乳を毎日提供する事で自然排便を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日・時間は自由で、個々の希望時間に入浴していただいている。入浴を楽しめるように、好みの入浴剤を使用したり環境づくりに配慮している。	毎日、朝から入浴できるように準備し、午前9時の入浴を好む利用者にも対応している。最低週2回を基準とするが、希望があればいつでも、何回でも応じている。入浴剤を使用して季節感を出している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれ自由に休息をとってもらい、夜間は良眠できるように個々の入眠スタイルに合わせた支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋により薬の内容・副作用を把握している。薬変更時は申し送りや日誌に記載し、スタッフ全員が周知確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴を理解し、生活全般の中で状況に合った役割を一緒に行うことで楽しめるように支援している。張り合いの持てること一緒に探したり、喜びを一緒に共有することで生活意欲に繋げられるように努めている。		

グループホームのぞみの家 カエデ館

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	屋外への散歩に付き添ったり、畑づくりをする事で外へ出る機会づくりをしている。ご家族との外泊や外出の際には、着替えや服薬などの準備をし協力している。また、希望の美容院へ行ったり買い物へ一緒に出掛け、出来るだけ要望に沿えるよう努めている。	広い敷地内や歩いて5分の公園に散歩に行く。畑仕事は格好の日光浴、野外での軽作業の機会となっている。毎月のように外食やレクリエーションがあり、回転寿司、赤平火まつりやランフェスタに車で出かけている。様々な機会を設けて外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額だが本人所持できる方には所持していただけ、自分で支払いができるようにしている。週に一度残金の確認をさせていただき、できるだけ紛失しないようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置し、自由に使えるようにしている。毎年、利用者様手作りのクリスマスカードをご家族様に送っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱したり迷ったりしないよう、トイレ・風呂場には表札をつけ、わかりやすいようにしている。掲示板を利用し、花を飾ったり時期に合わせた飾りつけをする事で季節を感じていただけるよう工夫している。ポットや湯のみ・茶菓子などで居心地の良い家庭的な雰囲気をだしている。	広く、天井が高い開放感にあふれた居間は明るく、天窓から日差しが降り注ぎ、遠くに山々が見渡せる。書道の作品、紅葉など季節感にあふれた掲示物が壁に貼られている。ソファや和室、食卓など思い思いの場所が用意されている。生活音はするが静かにゆったりと過ごせる空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置を工夫したり、和室を利用するなどし独りになれる空間づくりをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際は馴染みの食器や家具・写真や仏壇などを持ってきて頂いている。本人が安心して暮らせるよう部屋の配置もご家族や本人と相談し決めている。	居室はすべて8畳で、ベッドは備え付けであるが、それぞれ家族の写真、仏壇、家具など馴染みの物を持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや風呂場などには表札やのれんをつけて理解しやすいようにしている。安全な歩行ができるよう廊下には手すりをつけ、出来るだけ障害物は置かないようにし広々とした廊下スペースを確保している。		